

仙人・仙術の幻想入りに関する諸問題

胡玉

1. はじめに

東方 Project の舞台である幻想郷には、「仙人」という種族が存在している。この仙人という種族は『東方神霊廟』以降、急速にクローズアップされるようになったが、どうやらそれ以前から幻想郷には仙人が存在していたようだ。

東方 Project 作品群の中で仙人であるとされた人物は、書籍『東方茨歌仙』以降に登場している「茨木華扇」と、第13弾『東方神霊廟』以降に登場している「霍青娥」「物部布都」「豊聡耳神子」の神霊廟一行である。

「茨木華扇」に関しては、『茨歌仙』第二話で「仙人みたいな生活をしているのもただの隠れ…」と仙人であることがカモフラージュであるかのような発言をしたり [1]、第十四話で八雲紫から「貴方こっち側でしょう？」と妖怪であると言われていたり [2]、第十八話でも小町が華扇は仙人の真似事をしているだけとの発言をしており、華扇自身もこの発言を特に否定していない [3]。他にも華扇は他の鬼と同じように炒った豆を怖れたり [4]、腕に鎖をつけていたり、“片腕有角の仙人”という二つ名だったり、鬼である萃香や勇儀と旧知で、しかも彼女らと同じように自分の姓を冠したマジックアイテムを保有していたりと [5]、仙人ではなく実際は鬼なのではないかという説が大変濃厚なのでひとまず置くことにして、最初に我々の住む外の世界の仙人の特徴を挙げて、そのあと幻想郷の神霊廟一行の特徴と比較することにする。

次にそれを踏まえた上で、彼らがいつ、どのような経緯でやってきたのか仮説を挙げて検証していくことにする。

2. 外の世界の仙人と幻想郷の仙人の相違

道教の概要と変遷

道教は、儒教・仏教と並ぶ中国三大宗教の一つである。道教は漢民族の土着的・伝統的な宗教であり、中心概念の道（タオ）とは宇宙と人生の根源的な不滅の真理を指す。道の字は辵（しんにょう）が終わりを、首が始まりを示し、道の字自体が太極にもある二元論的要素を表している。この道（タオ）と一体となる修行のために錬丹術を用いて、不老不死の霊薬、丹を錬り、仙人となることを究極の理想とする。それは1つの道に成ろうとしている。

神仙となって長命を得ることは道を得る機会が増えることであり、奨励される。真理としての宇宙観には多様性があり、中国では儒・仏・道の三教が各々補完し合って共存しているとするのが道教の思想である。食生活においても何かを食することを禁ずる律はなく、さまざまな食物を得ることで均衡が取れ、長生きするとされる。

老荘すなわち道家の思想と道教とは直接的な関係はないとするのが、日本及び中国の専門家の従来の見解であった。しかし、当時新興勢力であった仏教に対抗して道教が創唱宗教の形態を取る過程で、老子を教祖に祭り上げ、大蔵経に倣った道蔵を編んで道家の書物や思想を取り入れたことは事実で、そのため西欧では、19世紀後半に両方を指す語としてタオイズム（Tao-ism）の語が造られ、両者の間に因果関係を認める傾向がある。それを承けて、日本の専門家の間でも同様な見解を示す向きも近年は多くなってきている。

老子の著書とされる『老子道德経』の「道」「徳」「柔」「無為」といった思想は、戦国時代後期には知られて